
ある雨の日のこと。

春波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある雨の日のこと。

【Nコード】

N0296C

【作者名】

春波

【あらすじ】

ある雨の日のこと。いつものように友達と一緒に学校へ行く。何を考えているのだから、友達は傘を持っていなかった。

ある雨の日。「さあ、待ちに待った土曜授業だ。3時間だけだけど頑張つて勉強するぞ！」なんて気にはなれないが仕方ない。

普段は休みのはずの土曜日。何曜日だったか忘れたが、その日学校の開校記念日だったので休んだ分を取り戻すため、今日は学校に行かなければならない。なんて最悪。人生をなめきっている自分にとっては辛いのである。

寝坊する事も出来なかつたし、熱を出す事も出来なかつた。急用で学校を休め、とも言われる事も勿論なかつたわけで。

しぶしぶ重い腰を上げて、家から一歩出る。ふと空を見上げると少しばかり雨が降っている。あーもう、こういう時の雨は嫌いだったのこ。

じゃあこの傘借りてくよ。行ってきます。早く帰ってこい？わかっているよ。と、いつもと同じ会話をお母さんと交わし、軽く手を振って、雨の中を歩いて行った。小降りだったので、もう少し待ってから傘を差そうと何気無く思い至る。

傘をぶらぶらと振り回しながら友達の家の前に到着。同時に友達も出てきたので、ほとんど間を空けずに歩き出した。

「おはよ」

「ん、おはよう」

視線が、無意識に友達の手元を見ていた。友達は傘を持ってきていない。

「え？雨降ってるの？」

空を見上げて今更、友達は言う。

間抜けが。と言いたい所だが、その衝動を押さえきり、少し肩を竦めて言った。

「降ってるさ。見てのとおり」

「傘差さないの？」

「まだ差さない。もつと降ってからだ」

ぼたぼたと雨が顔にかかる。建設中の家を通しすぎた辺りで、さてもうそろそろ傘を差すかと傘をひらいた。友達も濡れてしまうからいれてやらなければ。

そうして友達を傘の中に入れてやる事にするが、まったく。文句なんて言いやがって。私に雨がかかっているじゃないか、だと。拳句の果てには信号待ちの間に傘を奪われる始末だ。濡れていく。髪も制服も靴も。まあ、この時、心配しなければいけない事は髪の毛だ。癖毛なので、湿気や雨のせいで髪の毛が広がってしまう。あまり度が過ぎると酷い事になる。

ぐりぐりと前髪を弄ったり、顔にかかる雨を手で拭ったりして歩く。

しばらくすると、友達が頭に傘を引つ掛けてきた。彼女なりに傘の中にいれてくれているらしいが、逆に歩きにくい。傘の骨に髪の毛が絡まり、頭を動かした時にぷつんと音がした。

どうやったら楽だろうかと、かがむようにしてみるがそれも疲れる。だったら潔く雨に濡れてやろう。制服だから後でどうなってしまうか気になるが、雨に濡れるのは嫌いじゃない。むしろ雨に濡れるのは気持ちがいいから、いいや。

傘貸してやるよ。わがままさん。

友達は「わー、この人傘忘れてるー。ダサイー」みたいな事を呟きながら隣を歩く。その言葉に多少怒り　否、馬鹿かと眉をひそめながら、

「傘忘れたのはお前だろ」

と言った。友達は特に悪びれた様子もなく、微笑していた。

結局、学校に着くまで傘は手元に戻ってこず（いや、ほんの数秒だけだが戻ってきたか）髪の毛の広がり具合を気にしながらの登校で。乾いた後の方が重大であった事に、今更気が付いて。

そしていつものように、お互い別々の教室に入るまで隣に並んで歩いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0296c/>

ある雨の日のこと。

2010年10月15日23時05分発行